



# 学校だより

—令和5年3月号—

大田区立入新井第四小学校

校長 窪寺 雄一郎

中央 3-5-8 Tel 3773-3981

<https://www.ota-school.ed.jp/iriaraidai4-es/>

## 成長を自信に進級へ

校長

頬に当たる風にやわらかさを感じるようになり、春息吹く3月に入りました。校庭の木々の芽もふっくらと膨らみ春の訪れを感じるころとなりました。

学校では、6年生を送る会を行いました。各学年からの呼びかけ、ダンス、歌（替え歌）に込められた感謝の気持ちと、その姿を温かなまなざしで微笑みを浮かべながら見守り、拍手や手拍子で応援する6年生の優しさと頼もしさに包まれた素敵な時間でした。全員で歌った「すてきな友達」の歌声は、胸にこみ上げてくるものを感じ、私にとってのクライマックスでした。

今年度もあと少しとなりました。コロナ禍でお子さんはもとより、入四小の子どもたちの学びの姿をご覧いただく機会を十分確保できず、残念に思っています。改めてこの1年を振り返ると、一人一人の子どもに成長があり、日頃の子どもの姿に表れています。声に出して挨拶するようになった。先生や友達の話しをしっかりと聞くようになった。困っていることを人に話せるようになった。丁寧に字を書くようになった。宿題をやってくるようになった。当番や係を進んでやるようになった。友達が増え、友達と楽しく遊び、笑顔が増えてきた。…お家の方も、きっとお子さんの成長に気付かれていると思います。親から見入ると期待が大きいだけに、もっともつととか、まだまだとか、そのぐらい当たり前と思うことも仕方ないのですが、子どもは親の認めてくれた言葉、喜んでいる言葉、大丈夫と安心させてくれる言葉に力してもらい、勇気づけられ新たなことへの意欲や励みをもつものです。時に、子どもは未熟ですから、考えが及ばなかったり、誘惑に勝てなかったりして失敗もします。そんなときに、自分を認めてくれていた親のことばが、子どもの心に染みるのだと思います。いけなかったことをきちんと理解させ、どうすればよかったのか親子で考えます。そうしたら、難しいのですが親は気持ちを切り替えてほしいです。子どもはそのことでリセットできます。私たち教員もこのようなことを積み重ね、子ども一人一人の成長を認め進級へ自信をもたせたいと思っています。

最後になりますが、保護者、地域の皆様、1年間コロナ禍での教育活動へのご理解、ご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

## 3月の生活目標

『ろうかをしずかに歩きましょう。』

日	曜	3月行事予定
1	水	
2	木	
3	金	特別時程 感謝の会(6年)
4	土	
5	日	
6	月	委員会 なわとび週間始
7	火	お米の学校(5年)
8	水	
9	木	
10	金	特別時程 安全指導
11	土	土曜授業 補習教室 なわとび週間終
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	春分の日
22	水	給食終 卒業式リハーサル (6年以外は午前授業)
23	木	卒業式
24	金	修了式
25	土	
26	日	春季休業日始
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

## ◆◆◆学校自己評価について◆◆◆

今年度の教育活動の取組、成果と課題をまとめた「自己評価報告書」をホームページに掲載いたします。今後も更なる教育活動の充実・発展に努めて参ります。

## 卒業に向けて

6年担任

「6年生、ありがとう！」素敵な声が体育館に響き渡りました。2月22日(水)、6年生を送る会が行われました。4、5年生の代表委員の司会のもと、1年生～5年生がお世話になった6年生にお祝いの出し物を披露しました。6年生はかわいい下級生の出し物に、大きな拍手をしたり、一緒に踊ったりして楽しい時間を過ごしました。最後に6年生からお礼として『残酷な天使のテーゼ』の合奏を披露しました。堂々と演奏する姿は、最高学年としてとても立派でした。

卒業まで20日を切りました。残りの小学校生活を有意義に過ごし、子どもたちが自信と誇りをもって入新井第四小学校を卒業することができるよう、担任、教職員一同、力を尽くしていきたいと思えます。

### 卒業川柳



6年の 終わりを告げる 春の風  
桜咲く もうすぐ卒業 寂しいな  
友達と たくさん笑った 6年間  
さみしいな もうすぐお別れ 入四小  
また一步 大人に近づく 卒業式  
えんぴつと 親に感謝 卒業式  
卒業し 未来の一步 踏み出そう  
桜の木 いっしょにいたね 6年間  
友達と 築いた絆 忘れない  
桜咲き ピンクに染まる 第一歩

#### 6年生の保護者の皆様へ

年度当初にお知らせしましたが、給食費の年度末決算等でまれに返金が生じる場合がありますので、6月まで全東栄信用金庫の口座を解約しないでください。よろしくお願いいたします。

## 研究より

研究主任

### 今年度研究主題

主体的に学び合う子どもたちの育成  
—教えて考えさせる授業の実践を通して—  
教科 国語

#### ① 研究の経緯

入四小児童の実態から、基本的な学習内容の定着、授業内での子どもたち同士のかかわり合いの充実を図るため、昨年度、算数の授業研究に取り組み、教師がしっかり教える、子どもたちが教えてもらったことをしっかり理解して、更に考える授業を行いました。今年度は、その授業を国語で実践してきました。

#### ② 「教えて考えさせる授業」の流れについて

教えて考えさせる授業は、東京大学名誉教授の市川伸一先生が中心となって発信されている実践研究です。

**予習** 事前に分からないところを確認します。  
(教科書を読む、予習問題を解く 等)

**知っておこう** ↓  
教師からの説明によって、基本的な学習内容を提示し、理解します。

**確かめよう** ↓  
教科書や教師の説明を理解できているか確認するため、子ども同士の説明活動や学び合い活動を設定します。

**深めよう** ↓  
教えられたことを活用して考える発展的な問題を用意します。

**ふり返ろう** ↓  
授業で「分かったこと」「まだ分からないこと」をふり返り、分からないことはそのままにしないで、先生に聞きます。

#### ③ 今後の研究について

今後は、1年間の研究成果と課題について検証していきます。子どもたちは、「教えて考えさせる授業」を通して、友達に説明することで自信をつけたり、新しい考え方に気付いたり、学習内容が更に深まったと振り返っています。今年度の実践によって、入る四の子どもたちの学力が向上し、教師の授業力が向上するよう、主体的に研究を進めていきたいと思えます。